

事例11

< 事例概要 >

- ・ 80 歳代、洞機能不全症候群（植込み型ペースメーカーあり）、虚血性心疾患（ステント留置後）、高血圧、脂質異常症の患者。左室機能低下あり。BMI 25.1 kg/m²。
- ・ 約 3 年の病歴を有する持続性心房細動に対し、イリゲーション電極カテーテルを使用しアブレーションを実施。
- ・ 右大腿静脈から心腔内超音波を挿入時に横隔膜辺りで抵抗があった。シースを再挿入し、操作を開始した。操作終了後、覚醒したことを確認した直後、心停止となった。心臓超音波検査で心タンポナーデがないことを確認し、造影CT検査で後腹膜血腫と右浅大腿動脈仮性瘤を認めた。
- ・ 帰室後に抗凝固作用中和薬、輸血を投与し、帰室 4 時間後にバルーン止血術を実施した。翌日、経皮的心肺補助（PCPS）と大動脈バルーンパンピング（IABP）を実施したが、治療 3 日後に死亡した。
- ・ 死因は、下大静脈損傷による後腹膜出血、出血性ショック。解剖無、死亡時画像診断（Ai）無。